



トラベラーズワクチン (海外渡航時に使用するワクチン)

はまもと小児クリニック
理事長 浜本 史明

スポーツ選手にとって外国での試合に参加することは、これから先、益々多くなると思います。日本では制圧されており、稀にしか発生を見ない感染症でも広い世界では流行しているものや、渡航地でも感染するおそれのある疾患があります。

世界で流行している疾患

マラリア、黄熱、狂犬病、A型肝炎、ポリオ、コレラ、腸チフス、ウイルス病、流行性髄膜炎など

渡航先で感染するおそれのある疾患

日本脳炎、B型肝炎、C型肝炎、E型肝炎、破傷風、ジフテリア、エイズなど



こうした感染症が流行している発展途上国に渡航する場合、感染予防の注意が必要です。

短期間、都市部に滞在するスポーツ選手はともかく、長期にわたって発展途上国に滞在する選手たちは、あらかじめ接種しておいたほうが良いワクチンが多くあります。海外渡航時に接種するワクチンをトラベラーズ(渡航者用)ワクチンといいます。

トラベラーズ(渡航者用)ワクチン接種には、主に二つの目的があります。

一つは自分自身を感染症から守り、周囲の人への二次感染を防止するためのものです。上記の感染症のうち、マラリア、エイズ、C型肝炎、およびE型肝炎を除いたすべてのワクチンを接種することができます。渡航先によって流行している、または、土着している感染症が異なるため、その国や地域で推奨されているワクチンの種類が異なっていることも考慮しましょう。

もう一つは、入国時にワクチン接種を要求する国(地域)があります。渡航前にワクチン接種があらかじめ義務づけられているものの一つに、黄熱ワクチンがあることがよく知られています。さらに、流行性髄膜炎ワクチンの接種が要求されることもあります。日本では感染者が少ない流行性髄膜炎ですが、髄膜炎を予防するための大切なワクチンなので、集団生活をするスポーツ選手には、ぜひ接種をおすすめします。

日本では流行性髄膜炎の発症は稀ですが、世界各地で散発的に流行を繰り返しています。WHOでは年間120万人の流行性髄膜炎感染症の患者が発症して、13万人以上が死亡していると推定しています。流行性髄膜炎菌ワクチンの接種を推奨するものの中に、アメリカなどへの留学者で寮生活に入る者があげられています。2015年に山口市きらら浜で開催された、世界スカウトジャンボリーでも流行性髄膜炎の感染者が4人出ていました。感染すると致死的な病気の一つですので、ワクチンによる予防が重要になります。これからスポーツ関係等でかなり長期に外国に滞在する可能性のある方は医療機関にご相談ください。

厚労省検疫所から出されている海外渡航者のための予防接種に関するお知らせが、2019年3月に更新されています。(https://www.forth.go.jp/useful/vaccination.html)

参考文献:「ワクチンと予防接種のすべて」金原出版(株)